

世は改革の節目~Now the revolution is on node~

西田 弘 Hiroshi Nishida

(株)西田エム・イー研究所 社長 (ダイハツ工業(株) 社友)

問合せ/〒563-0043 池田市神田4-6-5 TEL 0727-51-6289 FAX 0727-51-6289

自動車は今や人間社会にとって不可欠の文明の利器である。地球上に約7億台が走り、年間5千万台強が生産され、地球人口60億の10%強が利用していることになる。

その分布はアメリカが断トツの2億1千万台、日本は世界第2位の保有国で7千1百万台。

ところでAutomobileは決して自動的に走るのではない、人動車(Anthromobile)というべきだと平尾收博士はいう。すなわち人間が操縦することによって性能、機能とその価値が発揮される、それだけに運転者次第では凶器ともなりかねない。

私の解釈ではEgoisticmobileという。なぜならDoor-to-doorを究極の目的とする余り、他人より速く目的地近くまで到着したいとの欲望にかられ、時間と空間を我儘に占有しようと運転者の人格すら変えてしまうからだ。

なかには公衆道徳をもわきまえない不ていな輩もいるとあれば、自動車礼讃論もやや遠慮がちになる。

私は自動車王国アメリカンドリームに憧れて1953年に大阪の自動車製造会社に入社した、クルマ屋である。

技術的にクルマを解剖してみると、110年の歴史の割にはその機構の進化はなく、あえていえば自動変速機の誕生位で、むしろ生産技術の進歩は著しい。

しかしこれだけ台数が増えると公害の元凶とやゆされるが、電子技術の採用で最近その対策が顕著に効果を上げつつある。ところが一方では1日に10数回程度しか使用しないスタータ・モーターと常時回転する蓄電池充電用のジェネレータの2つが、数kgの重量と大きいスペースを占拠していて無駄なことだと思う。

またエンジンといえばレシプロで100年以上の歴史的機構を継承し、排出ガスと省エネと高出力のトリレンマ解決のためコンピュータ制御が活躍しているが、悲しいかな燃焼の火焰速度とピストン速度との時間差を埋める技術は未だなく、特に大型ディーゼル車は未だ黒煙をはいて世のひんしゅくを買っている。

しかし乗用車は1kg当り約1500円の市場価格で売られており、家電製品の殆どが2000円から3500円と比較すると、その機能、効用からして数段有用にして経済的文明の利器といえるのではないだろうか。

ところがこれらの利器を扱う人間が、如何に環境と他人に配慮するかが今問われている。それは地球上の先進国、新興国、途上国を問わず世間の問題である。

話はかわって、この間機会あって大阪泉北にあるPETボトルの某再生工場を見学した。

工場に入ったところのストックヤードに、ボトルを圧縮して1m³のバッチに束ねられた回収品が数段の高さに露天積みされているのを先ず見せられた。

一方のPETの山は、緑色と無色透明のものが混ざり、かつ紙のラベルとプラスチックのキャップがついたままで雨露と天日を浴びて、えもいわれる悪臭を放っていた。

他方の山は無色透明のものばかりで、ラベルもキャップも外されている。勿論匂いなどない。なぜ2種類あるのか。見学者は異口同音に質問を發した。

案内の説明によると、色つき混在の山は某大都市の回収品であり、透明一色の山は某近隣衛星都市の回収品であるとのことであった。

工場の中に入ると、かの臭気が鼻をつく。ベルトコンベヤの前に並ぶ作業員が、マスクをつけてラベルとキャップを外す、中に混ざる異物を捨て透明品と着色ボトルに選別する。選別された2種類のボトルは先ずフレーク状に粉碎され、洗滌されて乾燥し、はじめて再生材料となる。勿論某衛星都市の分は簡単なチェック選別で粉碎され、洗滌され再生材料となる。両者の工数差は歴然としている。

何故かくも自治体によって再生資源ゴミに対する意識差があるのか、素朴な疑問にかられて分別をしない大都市の当局を訪問し実状を調査し、理由を聴取した。責任者は種々のパンフレットを示しながら、市民戸別にこれだけのPRと協力を要請しているのですがなかなか理解してもらえないので困っている。と予想通りのお役所の説明があった。

もし企業であれば、目的がかなえられず効果が上がらなかつたら達成策を直ちに講じるところだが、それが無い。そこで層別管理の方法、達成奨励策、地域限定試行の方策を提案して帰ってきた。反応を楽しみにしている。

いま新しい世紀を迎えるにあたって、技術のみならず行政、教育等システム改革が求められている。競争の土俵はグローバルある。その改革の着眼点は時間、空間のみならず人間、世間に期待が広がる。まさに Inter materials の時代である。

